

# 都技 生涯研修 学生・若手歯科技工士向け講習会Ⅱ

## 【重要なお知らせ】

1. コロナウイルス感染拡大防止目的により、参加申し込み者のみが視聴できるYouTubeの限定公開システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（\*オンライン環境がない方は会場参加可）。
2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**  
**つきましては受講対象者は以下の方に限ります。**
  - ① 学生並びに都技メイト会員（技工学校卒業後2年度内の方）
  - ② 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
  - ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

## 【申込方法】

- ① 参加希望者は右記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。  
ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>
- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。  
\*定員になり次第締切させていただきます。



申込用QR

## 【LINE公式アカウント登録のお願い】

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願い致します。



都技LINE公式  
アカウントQR

## 【お問い合わせ】

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F  
e-mail: [togi-info@to-ginet.com](mailto:togi-info@to-ginet.com)

令和3年度

## 学生・若手歯科技工士向け講習会Ⅱ

オンラインセミナー

### 咬合の基礎

～シークエンシャル・オクルージョンを通して～

榊原 功二 先生

### バーチャルアーティキュレーターを活用

～模型レスの時代に咬合調整の少ない補綴装置を作る～

前川 泰一 先生



Tokyo master course Science Lecture

## 【開催日時】

令和4年 **3月6日** 日

受付 12:40 開始 13:00 → 終了 17:00

オンラインセミナー

定員 **80名**

参加費 **無料**

会場受講

定員 **10名**

参加費 **無料**

場所 **東京都歯科技工士会 研修室**

東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F



一般社団法人 東京都歯科技工士会

## 咬合の基礎

シークエンシャル・オクルージョンを通して

補綴装置製作のとき重要なことは上下顎の咬合関係であることは、疑いのないことであろう。義歯、インプラントの咬合といった区別はなく咀嚼器官の役割とは何か、生体に調和した補綴物とは何かを考え咬合の再構築を行うことが重要である。咬合における上下顎関係はアングルⅠ級咬合の獲得を目指し前歯部は下顎運動に調和したガイダンス、臼歯部は、咬頭嵌合時の下顎位維持のためのコンタクトの位置を確立することを目指す、Ⅱ級咬合（遠心咬合）またⅢ級咬合（近心咬合）に適応した咬合関係（シークエンシャル・オクルージョン）も考慮することが必要である。

咬合様式の基本としてはミューチュアリー・プロテクション（相互保護）を構築することである。また情動ストレス発現方法として上下顎の歯の噛みしめやこすり合わせなどの生理機能によってストレスを発散させていると考えられる。この器官の重要なブラキシズムをスムーズに行なうための歯の形態を目標にし、さらに歯科審美的にも顎口腔系との調和を図り補綴装置を制作するのが歯科技工士の本来の仕事である。

今一度、咀嚼器官の役割を考えた補綴装置の形態、すなわち機能的咬合面形態を考えて歯科用CAD/CAMシステムへの橋渡し（患者固有のガイダンスや咬合面形態）が歯科技工士の仕事であるので、コンピューターとの融合が可能性を広げる分野であると考えられる。

\*シークエンシャル・オクルージョンは1987年にウィーン大学の（故）スラビチェック教授が提唱したもので、この理論はヒトの乳歯の萌出から永久歯列完成にいたる成長発育過程を、顎頭蓋の発達とリンクさせた生理的咬合理論である。

## ■講師略歴

## 榎原 功二

[さかさばら こうじ]



- 1968 愛歯技工専門学校卒業
- 同 技工専門学校助手として5年間勤務
- 1974 東京都日本橋 矢沢歯科医院入社  
(元日本顎咬合学会会長、矢沢一浩先生)
- 1986 東京都目黒区にて開業
- 1994 オーストリア、ウィーン大学留学（短期）
- 1997 ウィーン大学公認指導技工士
- 2001 日本技工士会 認定講師
- 2011 日本顎咬合学会 理事
- 2013 日本顎咬合学会 常任理事／歯科技工士部会部長

バーチャルアーティキュレーターの活用  
〜模型レスの時代に咬合調整の少ない補綴装置を作る〜

7、8年前、CAD/CAM冠が保険収載されて以降歯科業界でのデジタルの普及はとて速く進み、現在では保険技工であっても模型をスキャンしワックスを削り、或いはプリントし、埋没、キャストして仕上げる事も可能になった。多くの保険技工では補綴装置を最後に石膏模型で調整して納品することになる。しかし昨今のIOS（口腔内スキャナー）の普及や保険収載の噂を聞くと、保険の補綴装置を製作するのに必ずしも石膏模型が必要では無くなる可能性が出てきた。自費の補綴装置はともかく保険の補綴装置の製作でも模型レスの時代が来るのは考えられる事である。今までのように石膏模型で最終調整をせずとも問題なく納品する為にはCADソフトにあるバーチャルアーティキュレーターの機能を使い、できるだけ咬合調整の少ない補綴装置を作らなければならない。今回バーチャルアーティキュレーターの活用方法を実際の咬合器と比較しながら説明できたらと考えています。

## ■講師略歴

## 前川 泰一

[まえかわ たいいち]



- 1995 前川デンタルラボラトリー開業
- 2008 (株)前川デンタルラボ新設

- 歯科技工士
- 大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校同窓会関西支部長
- ICOI 国際口腔インプラント学会 技工部委員長
- 日本顎咬合学会 理事／指導歯科技工士／技工士部会筆頭副部長